

青森県助産師会のメンバーが最近、新生児訪問をしていて同居しているペットとの関係や環境、育児との関係などどのように注意喚起やお話をしていけば良いものか悩みであると話がありました。



そこで“ペットと赤ちゃん”と題してまとめてみました。よろしければ皆さんも参考にしてみてください。



- 新生児期から自宅で犬を飼っていた子どもは犬がいない世帯と比べて 3 歳時点でアトピー性皮膚炎と喘鳴の発症率が低かったとする米の研究（2008）
- 生後 3 ヶ月時点で犬を飼っている家庭では乳幼児期に食物アレルギーを発症する率が低かったという英の研究（2019）
- 一方で鳥とネコを飼い世話している子どもはアレルギー疾患の有病率が高かった、元々アレルギーがある場合、動物を飼育することによって悪化する可能性があるなどの報告もある

→現時点ではアレルギー予防に役立つかどうか結論はでていない



- 赤ちゃんの心の成長により影響を与える  
赤ちゃんの頃からペットとふれあうことで子どもの感情や情緒を豊かに育むことができると言われています。思いやりやいのちを大切にすることが身に付きます。
- 赤ちゃんの免疫力の向上  
赤ちゃんの頃から日常的にペットが持っている弱い細菌に触れることで、免疫力が向上しているからだと考えられます。
- ペットが赤ちゃんを守ってくれる  
犬やネコは母性本能が強く働くようで、赤ちゃんをやさしくかわいがってくれます。赤ちゃんが泣いていたり、大きな音がしたら真っ先に赤ちゃんの元に駆けつけるペットの姿をテレビなどで目にすることがあります。こうしたペットの行動は赤ちゃんの精神的安定につながります。
- ペットの癒やし効果  
動物とのふれあいによる癒やし効果は「アニマルセラピー」とも呼ばれ気持ちが落ち着いたりストレスが軽減されたりすることでしょう。赤ちゃんの泣きに悩まされているときなどペットで気持ちが落ち着きます。



### ①アレルギーに注意

ペットの毛やフケ、唾液や尿などにより赤ちゃんによってはアレルギーを発症することがあります。

#### <対処法>

- ・ペットを定期的にシャンプー、ブラッシングをしてダニや余分な毛を取り除く
- ・日々の掃除、洗濯をこまめに行う
- ・こまめに換気をして空気清浄機を活用する・・・必需品
- ・ペットの居場所と赤ちゃんの居住区を別にする

#### <アレルギーになったら>

- ・できるかぎりペットとふれあわない
- ・犬の毛など抜け毛対策効果のある服を着せる
- ・週1回シャンプー、毎日家の外でブラッシング

### ②ペットからの感染症

- ・ペットは床、地面に接して生活しているので汚れやすく自ら清潔行為ができない
- ・犬の約75%、ネコのほぼ100%が口腔内にもっているパストレラ菌が肺炎や引っかかれた箇所のひどい炎症をおこす。

ネコ：トキソプラズマ症・・・ネズミ・虫・生肉から

- ・重症熱性血小板減少症・・・ダニ
- ・ネコひっかき病・・・ノミ
- ・コルネバクテリウムウルセランス病・・・他動物感染はしない
- ・皮膚糸状菌症・・・猫カビは移るー毛刈りと専用シャンプー

#### <対処法>

- ・ペットと濃厚な接触はしない  
ペットが赤ちゃんの顔をなめる。赤ちゃんがペットをなめることがないように・・・。
- ・ペットを清潔に保つ
- ・糞尿の処理はすみやかに行う。妊娠中はネコの排泄物に注意：他の人にやってもらうなどする
- ・ペットに触ったら必ず手洗いをする
- ・与えるフードは加熱済みのものにする
- ・ノミとマダニの駆除と対策
- ・猫の寝床やカーペットを含む掃除
- ・ペットを外に出さない
- ・赤ちゃんの保湿、湿疹の治療をきちんと行う。皮膚に乾燥や炎症があると肌のバリア機能が損なわれアレルギーが入りやすくなります。アレルギー予防のために保湿を

十分にしましょう

### ③衛生面に注意

赤ちゃんはベビーベッドに。寝室はペットと別に。

赤ちゃん和ペットだけにしない。

ちょっとの間でも離れるときはペットをゲージに入れる。

### ④ペットのしつけ

- 基本的なしつけは当然ですがペットがむやみに赤ちゃんをなめたり手をかけたりすることのないようにしつけをします。
- 赤ちゃんから目を離さなければいけないときはペットを一時的にゲージに入れむやみに接触したり万が一の事故が起こらないように管理することも時に必要です。妊娠中からしっかりとしつけておく必要があります。
- においをかかせる程度のコミュニケーションから始めてならしていきます。
- ペットのメンタルをケアすることも忘れずに・・・ペットが寂しさの余りストレスとなりストレスによって赤ちゃんを攻撃したという話もなくはないのです。
- 赤ちゃんが生まれてもこれまでと変わらない愛情を持ってペットに接してあげましょう。



## 赤ちゃんとの同居によるネコのストレス対策

飼い主の赤ちゃんとの暮らしが始まる際にネコの感じるストレスが軽減できるように

### ①ネコだけで過ごせるスペースを設ける

赤ちゃんの泣き声、大人達の大きな声で家の中が騒がしくなりがち

ネコが適度に赤ちゃん和距離を置きくつろげるスペースを作ってあげる

### ②トイレは静かな場所に設置する

ネコは大きな音が苦手なので赤ちゃんの泣き声や余り届かないところに設置すると落ち着いて排泄できるでしょう。赤ちゃんが入れないようにベビーゲートなど設置するのも良いでしょう。

### ③毎日短時間でも遊ぶ時間をもうける

ネコにとっての遊びの時間は飼い主とのコミュニケーションの役割であり、ネコ、飼い主双方が赤ちゃんや育児からのストレス解消の時間になるでしょう。育児の合間に意識的に日に何回か遊びの時間を作ってあげると良いでしょう。



## ネコが赤ちゃんとは仲良くなる方法

警戒心の強いネコと予想外の行動をする赤ちゃん。

ネコと赤ちゃんの対面は順を追って慎重に

- ① 赤ちゃんの部屋にキャットタワーやキャットウォークを置くとネコも安全な位置から赤ちゃんを観察することができる
- ② 赤ちゃんの声になれさせる  
妊娠中から赤ちゃんの泣き声を聞かせ、慣れさせると良いでしょう。
- ③ 同じ空間で過ごす。赤ちゃんの授乳時間に同じ部屋でネコもご飯を与えてみましょう
- ④ ふれあいは大人の見守る中で  
同じ空間にいることが慣れたら互い落ち着いているときに赤ちゃんをネコに近づけてみましょう。大人が手を添えてネコに触れさせてみましょう。